

持続可能な未来のための提言

～環境の視点から～

全体提言

私たちが海洋プラスチック問題について学校の関係者の方々に伝えたいことは以下の二つです。

- 現在、学校で消費されているペットボトルの量を知ること
- 学校にドリンクサーバーなどペットボトルを使用しないような設備を導入し、ペットボトルの消費量を減らすこと

海洋プラスチック問題は個人のちょっとした意識変化だけでは変えようもないものです。そして、ペットボトルがどのように地球に影響を与えているのかを知り、学校という大きな組織に自動販売機ではなく、ドリンクサーバーやウォーターサーバーを設置するアクションを起こし、学校全体でペットボトルの量を減らして行くために私たちは学校に提言します。

目次

1. はじめに.....	3
a. この提言書について	
2. 海洋プラスチック問題とは.....	3
3. ペットボトルが地球に与える影響.....	3
a. 海洋ゴミのペットボトルの割合	
4. 学校で消費されているペットボトルの量.....	4
a. 私たちの学校の生徒のドリンクの持ち歩き方についてのアンケートデータ	
5. 学校にしていだきたいこと.....	6
a. 実際にしていだきたいこと	
b. 自治体が実際に起こしているアクションの例	
6. 提言.....	7

1. はじめに

この提言書はワン・ワールド・フェスティバル for Youth 2021 でのシンポジウム内で参加者のみなさんと一緒に考えた案をまとめ、ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 2021 の高校生実行委員である私たちが通う学校で、その案を実際に実践し結果をまとめたものです。そのため、この提言書は私たちだけではなく当日シンポジウムに参加して下さった参加者の方と共に創り上げた提言書になります。

2. 海洋プラスチック問題とは

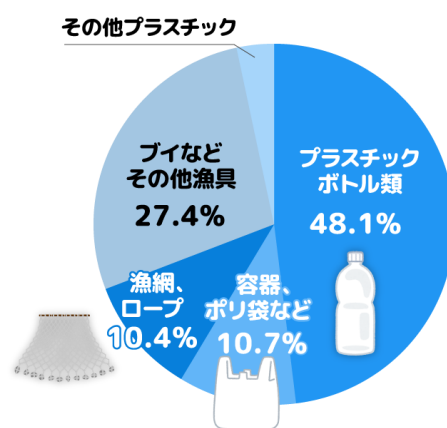
プラスチック製のペットボトルや容器などが、ポイ捨てや適切な処分がされていないことにより海に流され、海洋プラスチックごみになります。プラスチック問題は海洋だけの問題ではなく、気候変動、地球全体に関わっていて生態系に大きな影響を与えています。

実際に海洋ごみの影響により、海洋哺乳動物など約 700 種類もの生物がプラスチック製品を餌と間違えて飲み込んでしまい、それが体内で消費されず腸閉塞になったり内部を傷つけられたりしています。また、そうした動物たちは死に至る場合があります。

(<https://www.wwf.or.jp/activities/basicinfo/3776.html>)

3. ペットボトルが地球に与える影響

令和元年に環境省が調査した海のプラスチックゴミの内訳では、ペットボトルの割合が非常に多くなっています。



引用 : <https://www.ecodane.jp/plastics-smart/house-trash.html>

(環境省 HP より孫引き : https://www.env.go.jp/water/marine_litter/conf/02_02doukou.pdf)

なぜ、ペットボトルの使用量を削減しなければならないのでしょうか。上記の海洋プラスチックごみの内訳の割合をみても、ペットボトルごみの量が群を抜いて多いことから、ペットボトルを削減出

来れば海洋プラスチックごみや、ペットボトルを焼却する際に出る二酸化炭素の量を大幅に削減し、気候変動に抗うことに繋がるといえるからです。

4. 学校で消費されているペットボトルの量

2022年1月7日（金）、私たちの通う学校（大阪 YMCA 国際専門学校国際高等課程国際学科）で実際に皆さんがどのようにドリンクを持ち歩いているのかを調査するためにアンケートを実施しました。条件や結果は以下の通りです。

条件

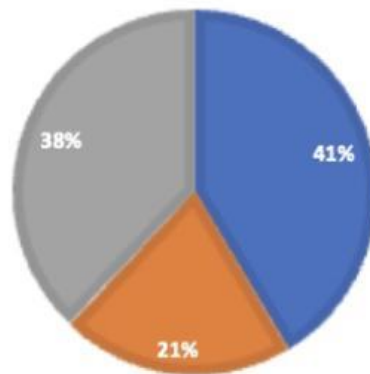
- 日程
 - 2022年1月7日（金）
- マイボトルの持参人数
 - ペットボトルの使いまわしは含まれない
 - ペットボトルを買わなくていい入れ物ならマイボトルに含む（タンブラーなど）
- ペットボトルの持参人数
 - リサイクルマークがついているもののみ
 - プラスチックの容器は入りません（例：ヨーグルトの飲み物、コンビニエンスストアのプラスチック容器など）

結果



2年生のペットボトル持参率

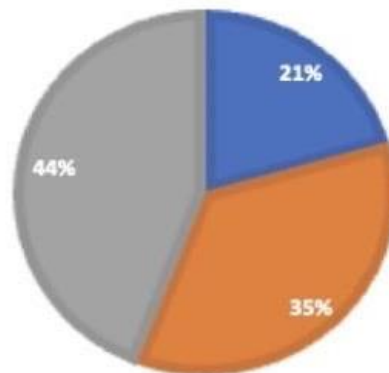
■ ペットボトル ■ マイボトル ■ その他



n=29

3年生のペットボトル持参率

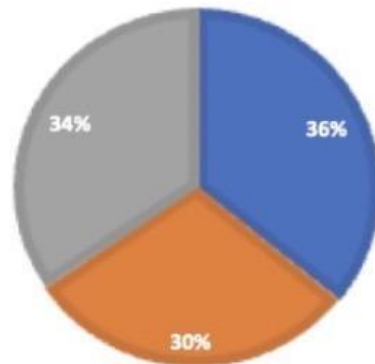
■ ペットボトル ■ マイボトル ■ その他



n=34

全体の割合

■ ペットボトル ■ マイボトル ■ その他



n=81

その他：紙パックやリサイクルマークがついていないプラスチック容器など

※リサイクルマークのない容器包装プラスチックに分類されるものはペットボトルに含まれない

これらのデータの結果から推測されることは大阪府の高校生 272,011 人（通信制高校を除く*）の3割以上の人がペットボトルを消費しているということです。大阪府の高校生全体でペットボトルの使用数をゼロにすると、1日あたり 81,603 本のペットボトルを削減できるという事になります。

*全日制の高等学校と専修学校の生徒の数を合わせた人数です。

(<https://www.pref.osaka.lg.jp/kyoikusomu/handbook/data.html>)

*通信制の高校では通学日数が少ないこともありデータが正しく反映されないため。

5. 学校にしていきたいこと

a. 学校の方々に実際に行っていただきたいことは、学校にドリンクサーバーやウォーターサーバーを設置するということです。そうすることで、生徒たちはマイボトルを持ち寄れば、ペットボトルのドリンクを購入しなくても良くなります。

b. 現在、多くの自治体や団体がウォーターサーバーの設置などの政策を積極的に進めています。実際にウォーターサーバーを設置している自治体や団体の例を、以下の通り紹介します。

① 所沢市ではマイボトル専用給水スポット（ウォーターサーバー）があり、マイボトルを持っている人はペットボトルを消費しなくても、ウォーターサーバーより水を補充することができます。



所沢図書館本館



引用：[所沢市ホームページ](#)

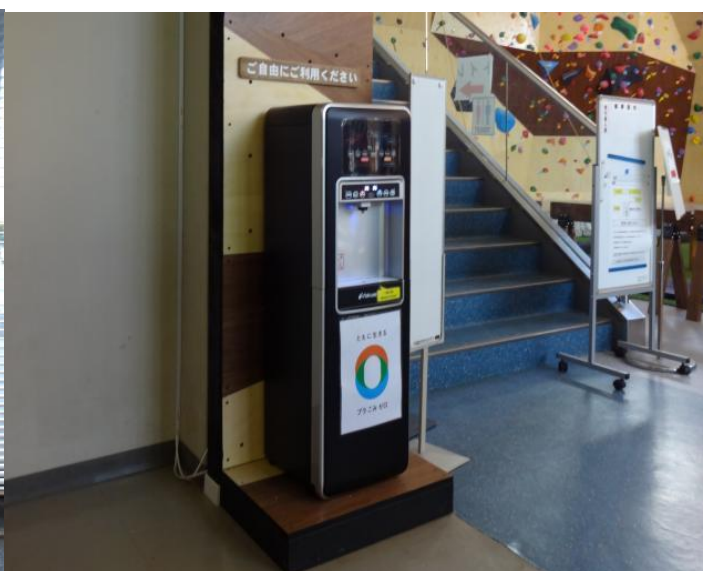
→目的：ペットボトルなどの使い捨てプラスチック容器の利用を減らし、ゴミの削減や循環型社会の形成に向けた意識を高めるとともに、マイボトルの持ち歩きを推進するものです。そのため、プラスチックコップ、紙コップなどの使い捨て容器は用意していません。

② 京都府亀岡市で市内公共施設など7箇所に給水スポットを新たに整備しています。

→目的：「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」の具現化のため、使い捨てプラスチックの使用削減に向けたマイボトルの普及促進と、市内飲食店などと連携した、マイボトルに無料で「亀岡のおいしい水」が補給できる給水スポットづくり『いつでも、どこでも「亀岡のおいしい水」プロジェクト』に取り組んでいます。



亀岡市役所一階



亀岡市交流会館

引用：[亀岡市ホームページ](#)

6. 提言

私たちがこの提言書で伝えたいことは、学校という大きな組織から変化を起こして欲しいということです。個人の活動だけでは、海洋プラスチック問題の解決には追い付きません。そこで私たちははじめの一歩として、ドリンクサーバーの設置を呼び掛けたいと思っています。ドリンクサーバーの設置をすることによって、マイボトルをも持つというムーブメント（ウォーターサーバー＋マイボトルにして、外出先で飲料を新たに買う機会を減らすことが出来れば、ペットボトルごみの削減に貢献できる）につながるとしています。私たちが集計したデータから、大阪府の全日制の高等学校に通う生徒だけで1日で81,603本のペットボトルを削減できると私たちは考えています。リサイクルペットボトルなどのリサイクル製品は、海洋プラスチック問題の解決にはなりません。将来の地球のためにペットボトルの消費を根本的になくすことが、海洋プラスチック問題の直接的な解決に繋がります。ですので、学校という大きな組織から変革を起こしてってください。

アドバイザー：佐竹敦子さん（環境活動家・ドキュメンタリー映像作家）
 作成者：宮迫怜菜・保田竜（大阪 YMCA 国際専門学校国際高等課程国際学科）